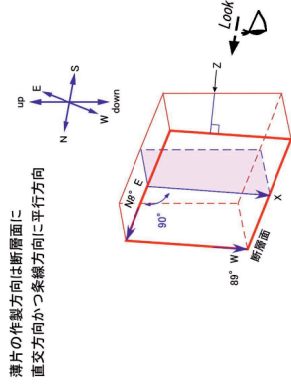
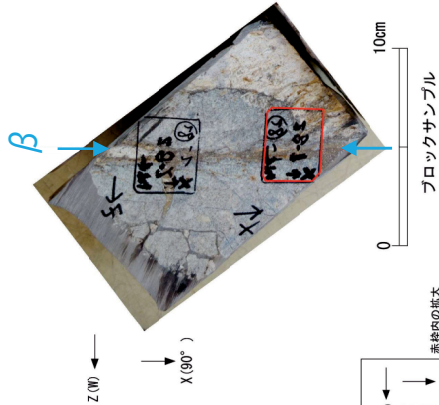
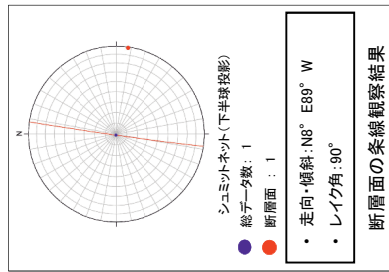
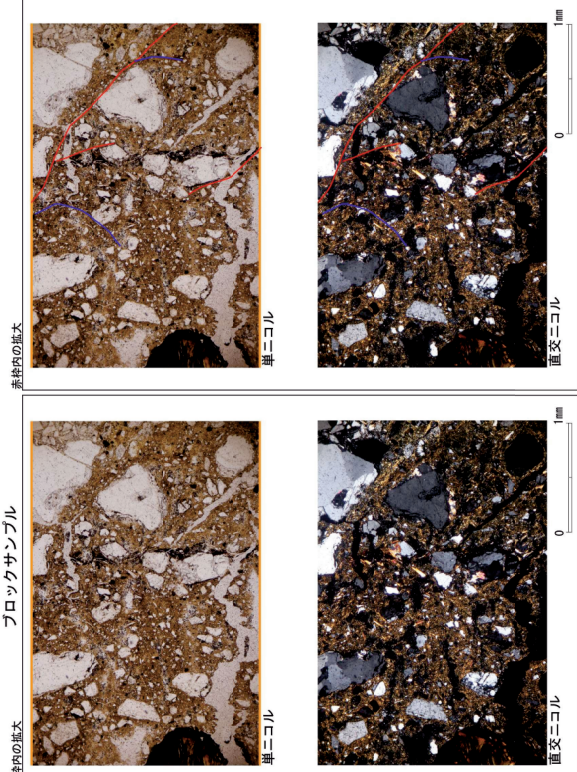
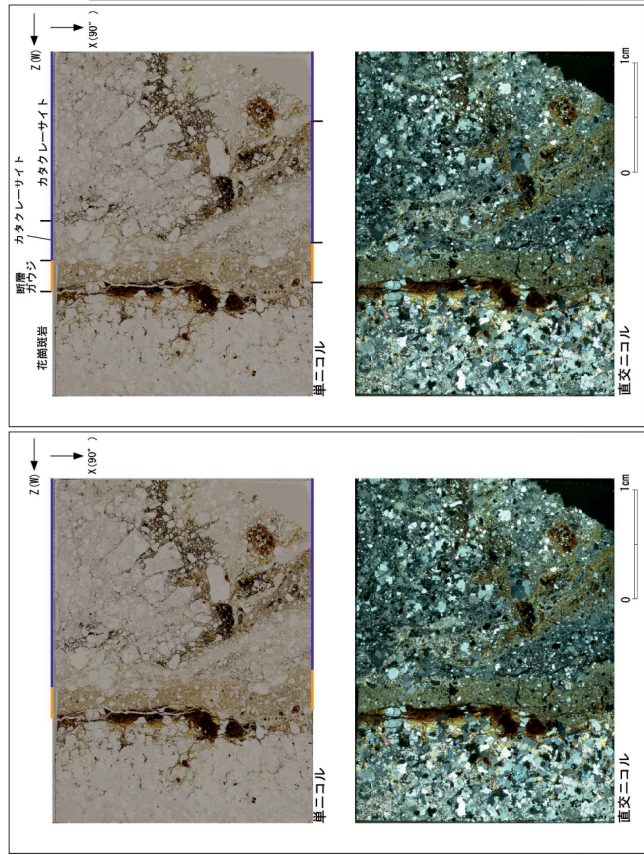


- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
  - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面βは最新活動面



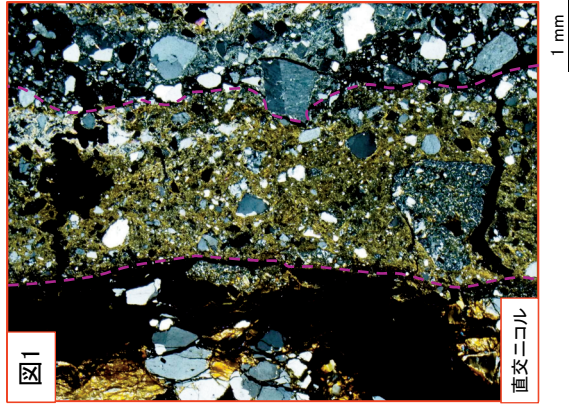
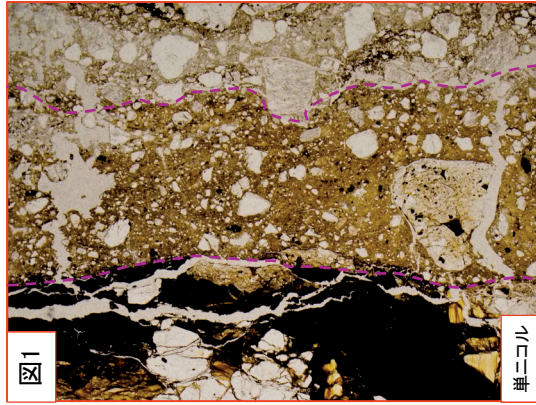
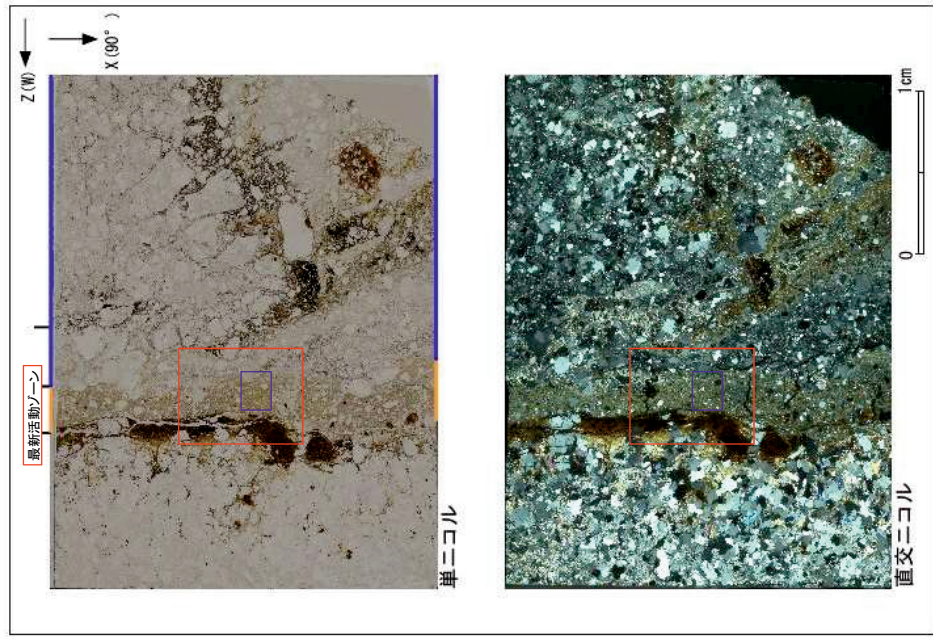
走向・傾斜 N8° E89° W  
X: 条線方向 (下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向 (上壁側を正とする)



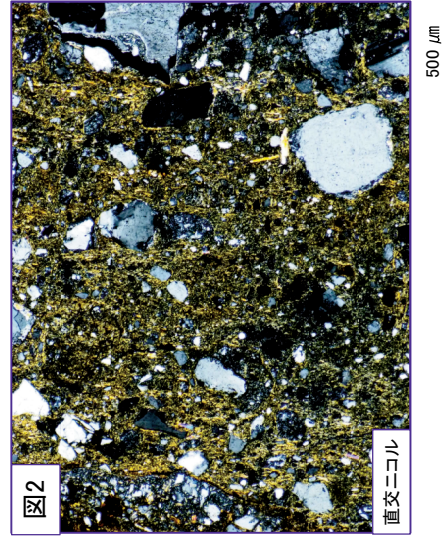
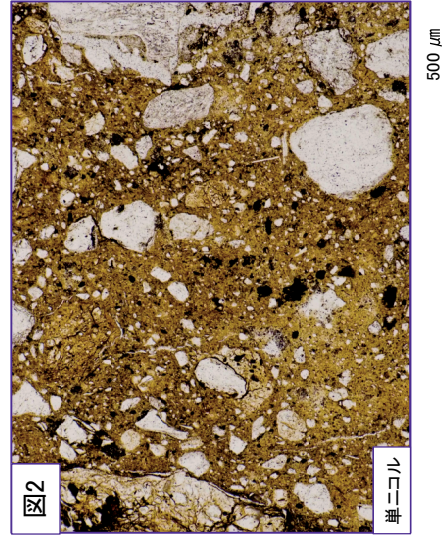
凡例
断層ガウジ
カタクラレーサイト
R1面
P面

第7.4.4.288図 (3) 破碎部性状 H27-B-2 深度61.29~61.69m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度61.43m)

- 肉眼観察では、粘土状部はやや軟質で、細粒部の上端の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認されたやや軟質な粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	1.5	有

\*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。  
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「一」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度63.75～63.80mの「粘土・砂混じり岩片状」と記載の箇所については、軟質であるが、明瞭な粘土脈は分布せず、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。また、上位の健岩部との境界が漸移的で直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度63.80～63.85mの「礫質粘土状」と記載の箇所については、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められないが、やや硬質で、粘土の境界面は波打ち直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●63.75～63.85m：破砕部  
 63.75～63.80m：粘土・砂混じり岩片状部 (Hj)  
 上端3°で波打つ割れ目で、下端46°で波打って連続。径5～10mmの岩片と岩片間の粘土状～砂状部からなる。にぶい橙色を呈する。幅30～50mm。  
 63.80～63.85m：礫質粘土状部 (Hb)  
 上端46°、下端47°でともに波打って連続。径1～3mmの石英粒、径5～20mmの硬さ「D」岩片を20～30%含む。やや硬質。灰褐色を呈する。幅20～35mm。

コア写真



凡例  
 ← → 破砕部範囲※  
 ※:写真上は白色で記載

境界面は波打ち直線性に乏しい



青砕部拡大

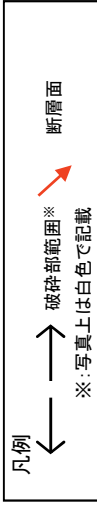
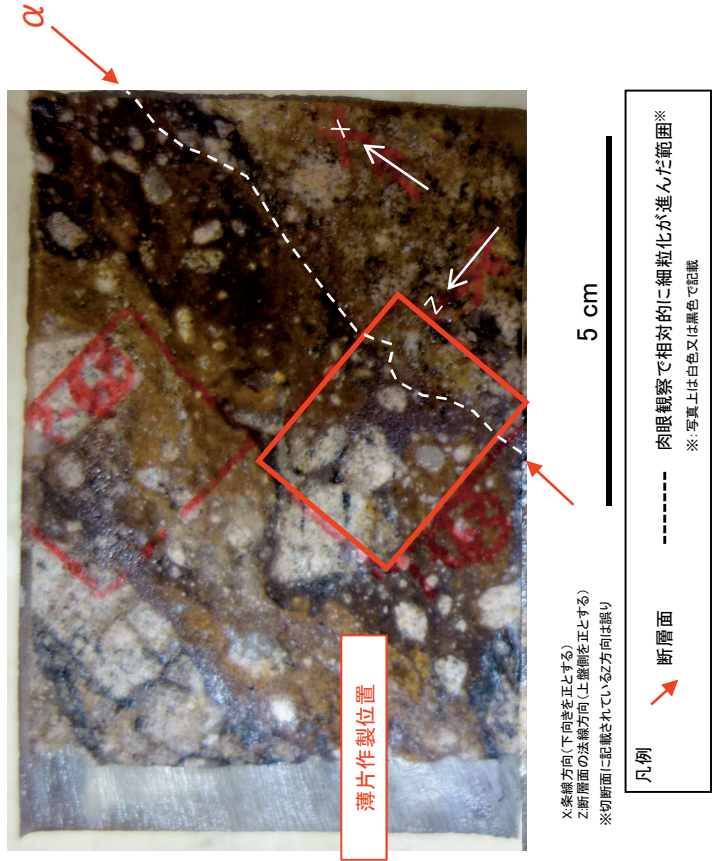
・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

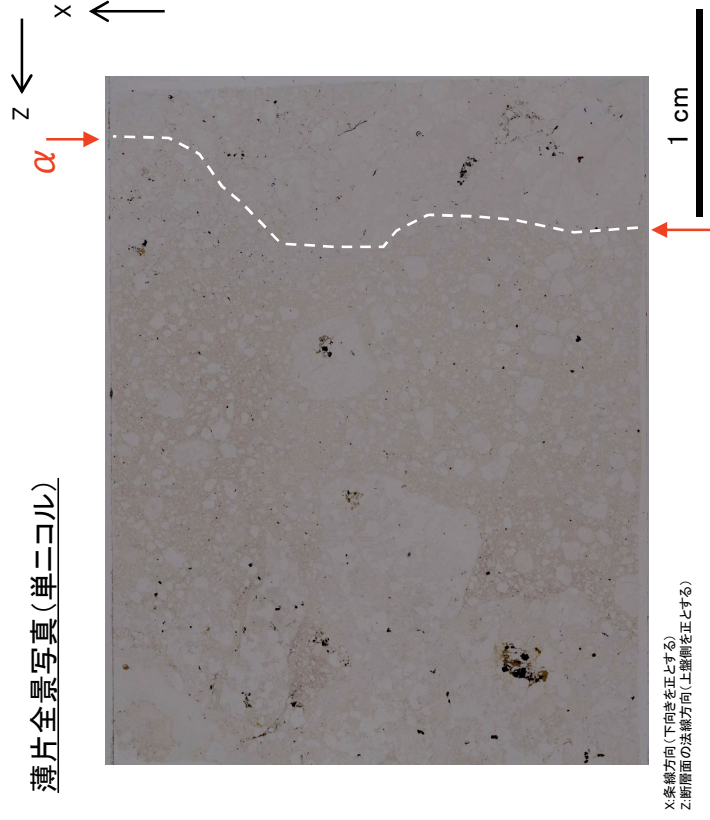
※断層面  $\alpha$  は最新活動面



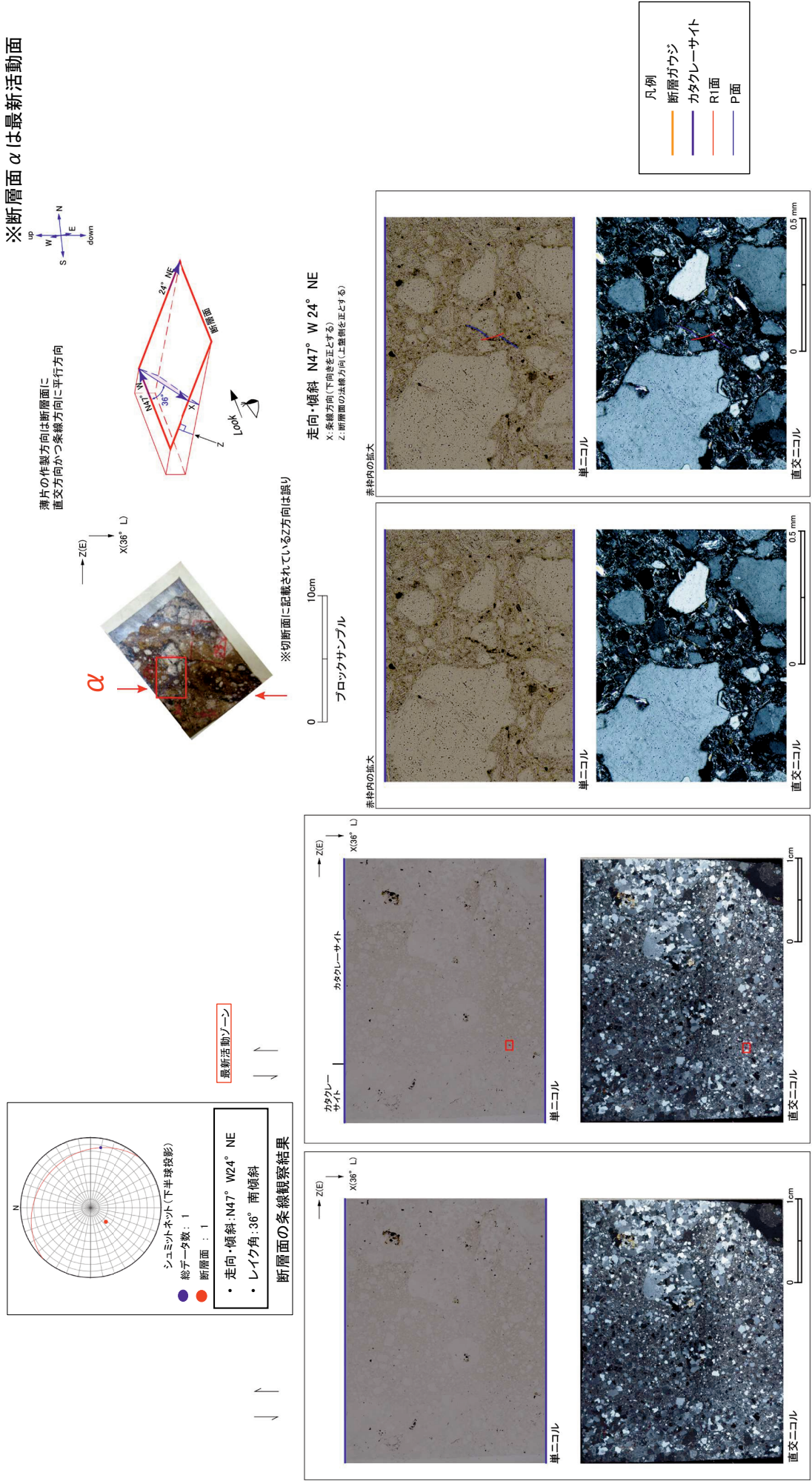
薄片作製位置写真



薄片全景写真(単ニコル)

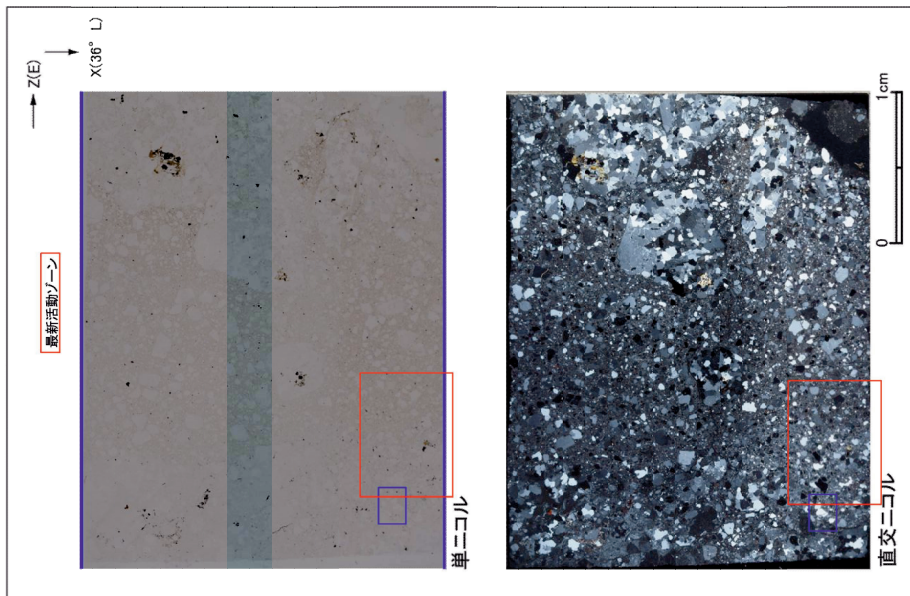


- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
  - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - (カタクレーサイト) 組織は漸移的に変化する。
  - (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
  - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
  - (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
  - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
  - (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

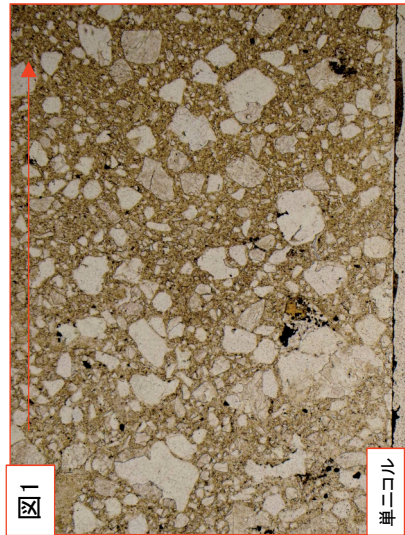


第7.4.4.289図 (3) 破砕部性状 H27-B-2 深度63.75~63.85m (変位センスによる断層岩区分(1/3))

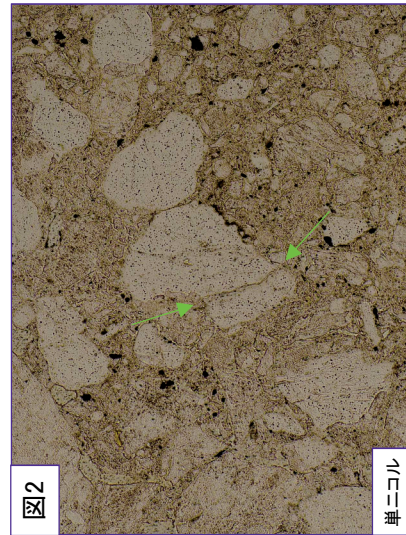
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2)
- 組織は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)



凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト



赤矢印：粘土鉱物が漸移的に減少する  
 岩片量が漸移的に増加する



緑矢印は岩片の粒界を横断する  
 破断面を示す

